

講義コード		科目区分	基礎教育科目
(フリガナ)	テツガク	(フリガナ)	タカハシ ノリオ
授業科目名	哲学	担当教員名	高橋 憲夫
英文授業科目名	Philosophy, Western Philosophy		
基準年次(開講期)	1年(前期)	履修形態	選択
曜日/ 時限/ 講義室	木 5 限/ 浅草		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	常に物事の本質を考える。哲学者から生き方を学ぶ。		
授業概要・目的	哲学の命題とその捉え方、考え方を哲学史の中に見出し、哲学的思考、思惟を体験し、将来、自らの哲学を打ち立てるための基礎を気づくこと。		
到達度評価の評価項目	期末試験の成績がすべて。但し、評価は、講義内容の記憶ではなく、そうして得た知識を基に、哲学的なテーマについて如何に自らの考えを深めたかという点が重視される。		
授 業 計 画			
第 1 回	ガイダンス：哲学とは何か、その課題と方法		
第 2 回	古典古代ギリシア：西洋哲学的思惟の発生		
第 3 回	古典古代ギリシア：西洋哲学の発展		
第 4 回	哲学と宗教 その1 古典古代の宗教と哲学		
第 5 回	その2 ユダヤ・キリスト教と中世哲学		
第 6 回	その3 古代インド哲学、仏教思想と西洋哲学		
第 7 回	その4 古代中国思想と西洋哲学		
第 8 回	中世から近世へ 中世普遍論争		
第 9 回	中世の崩壊と近世社会 近代的市民的自我意識の覚醒		
第 10 回	絶対王政と市民革命		
第 11 回	市民革命と哲学		
第 12 回	近代国家の成立と哲学		
第 13 回	近代哲学の成立		
第 14 回	近代から現代へ：現代哲学の諸潮流とその課題		
第 15 回	まとめ：哲学思想に対して自己の考え方を投影し、改めて自分自身を知る機会とする。		
教科書・参考書等	授業中に適宜、紹介する。		
授業で使用する機器等	P. C.、O. H. P.		
予習・復習へのアドバイス	予習は不要。但し、徹底的に復習をしてほしい。		
履修上の注意・受講条件等	哲学は、大学生の教養として必要な科目の一つですが、必修科目ではありません。本当に学ぶ気持ちのある学生に受講してほしい。		
成績評価の基準等	期末テストの結果80%、授業内小テスト20%。		
メッセージ	物事の本質を追究することが哲学という学問の神髄です。いい加減な気持ちでは勉強になりません。		
オフィスアワー	講義担当日の最初と最後の担当科目の前後一時間は、研究室に居ます。但し、5限は例外で、帰宅します。		
その他			